四條畷市埋蔵文化財包蔵地調査概報1

讃良川遺跡発掘調査概要

四條畷市大字岡山所在

1975

四條畷市教育委員会

例　　言

●本報告書は讃良川遺跡発掘調査団が実施した四條畷市岡山〝新池〟東岸一帯の公的住宅建設用地にかかる埋蔵文化財の範囲確認調査の概要である。

●発掘調査後の出土品整理は、野島、多田羅が、報告書作成は櫻井・野島が行った。

●調査にあたっては、土地所有者各位、高橋健三、奥村中市、刀祢格光、林義夫、藤井清司、中村長治郎の方々の御協力を得たほか、枚方市文化財研究調査会、畷古文化研究保存会から多大の援助を受けた。いずれも特に銘記して感謝の意を表したい。

昭和50年6月

四條畷市教育委員会

目　　次

1．遺跡の位置と環境 …… 1

2．調　査　日　誌 …… 2

3．調　査　概・要 …… 5

4．出土遺物概要 …… 7

5．ま　と　め …… 9

図　版　巻　末

調　査　団　組　織

顧　　問　田代克己（大阪府教育委員会文化財保護課）

　　瀬川芳則（府立寝屋川高校教諭・日本考古学協会員）

　　中田勝三（畷古文化研究保存会々長）

団　　長　奥田久雄（四條畷市教育委員会教育長）

副団長　上本真己（四條畷市教育委員会教育次長）

　　櫻井敬夫（畷古文化研究保存会副会長・市立四條畷南中学校々長）

事務局　竹中篤郎（四條畷市教育委員会社会教育課長）

　　井上博司（　〃　社会教育係長）

　　並川千鶴子（四條畷学園短期大学学生）

調査担当者　櫻井敬夫（畷古文化研究保存会副会長・市立四條畷南中学校々長）

　　野島稔（四條畷市教育委員会社会教育課）

調査員　山下幸一（大阪府文化財愛護推進委員）

　　多田羅正彦（大谷大学学生）

　　和田健志（奈良大学学生）

　　西川正節（　〃　）

　　小林克重（桃山学院大学学生）

　　清水弘敏（京都産業大学学生）

1．遺跡の位置と環境

昔の讃良郷の名をそのままとった讃良川は、東の山地にその源を発して枚方台地の南端を東西に流れ、西の平地部の門真市巣本附近で南流する寝屋川に合流している。

片町線がこの川を渡るあたりから、流域は少しずつ拡がり、東高野街道と交叉する部分から西は南北約200ｍの流域を作って大字砂の平野部に流れている。片町線忍ケ丘駅より西、約500ｍには岡山新池があり、讃良川は現在この池の北側を流れている。しかし新池が築造される以前は、枚方台地南端と東からのびる洪積期の忍ケ岡丘陵との低地を自然のままに流路をかえつつ流れていたことであろう。

この新池北岸の段丘から寝屋川市国守町の台地の南面する部分は（O.P.14ｍ ～20ｍ）旧石器時代から縄文後、晩期、奈良時代前期（讃良川川床遺跡、岡山遺跡、讃良寺跡）と原始から古代にかけての複合遺跡である。

前面に清流の讃良川、程遠くない西南方には当時海に続く沼沢地があり、東に清滝、岡山の山々をひかえたこの遺跡は、たしかに先人の住居として最適の場所であったにちがいない。

現在この遺跡の大半は、住宅、工場、養豚場等となり、段丘部分がかろうじて残されている状態である。また過去に岡山新池築造の際につけかえられた讃良川の現在の流路は、遺跡の重要部分を東西に横切っているものと考えられる。

生駒山系東部の山麓から交野台地、枚方台地にかけては、各時期の遺跡が数多く発見されており、旧石器時代の遺物発見地は、三ツ池、神宮寺、打上、讃良川床などであり、縄文早期には、神宮寺・穂谷の遺跡、中期には星田旭の遺跡、後・晩期にはこの岡山遺跡がある。また東大阪市には日下貝塚をはじめとして縄文後・晩期の縄手・馬場川遺跡がある。古代寺院には讃良寺跡の北方約900ｍに高宮廃寺、東南方約1000mには正法寺跡が所在している。

昭和24年、片山長三氏の手によってはじめてこの遺跡が調査されたが、縄文時代後期・晩期の石器、土器とともに細石器のコアも検出された。また同時に讃良寺の古瓦も出土している。昭和44年、畷古文化研究保存会、46年市教委の手によって小範囲ではあったが段丘部分の緊急調査では、握槌、チョッピングトール、ナイフ型石器、細石刃など旧石器が－160cm附近の砂利層から出土しており、併せて縄文後・晩期の土器、石器、礫器などとともに古瓦も出土した。この調査の過程で、遺跡一帯の表面範囲調査が行われたが、遺跡は新池北岸一帯の東西約200m、南北約150mの範囲に所在しているものと推定された。

旧讃良川流路の新池東部の平地、ならびに南側忍ケ岡丘陵北側台地については未だ調査が行われておらず、緊急にその遺跡範囲の確認の必要上今回の調査となった次第である。

2．調　査　日　誌

昭和50年3月13日　時

地点（基準杭）を地図上に入れる。地区地点割の決定及び表示方法の決定。

3月14日　晴

調査事務所敷地内の資材除去作業。

3月15日　晴

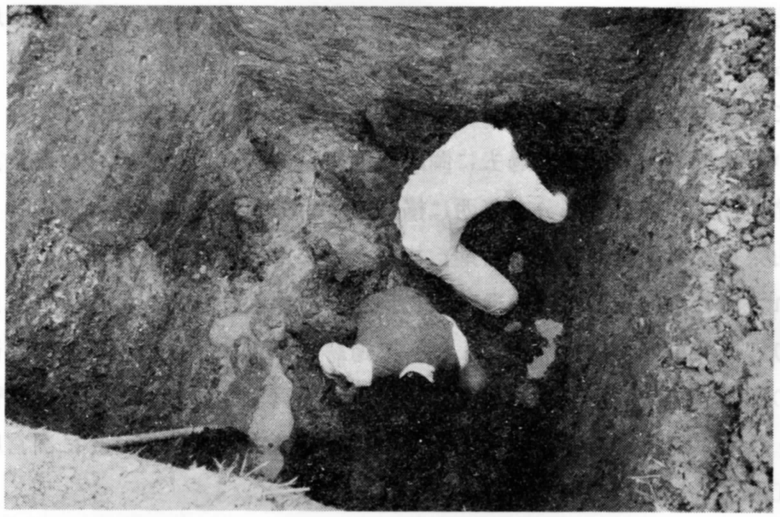
調査区域内の写真撮影。

3月17日　晴

午前10時讃良川遺跡発掘調査事務所で結団式。

3月18日　晴

基準杭設定作業を続行。R－8第1トレンチ設定開始。トレンチ北側で落ち込みと30m～40m間隔で東西方向の杭列遺構検出。



3月19日　晴

湧水がひどく水中ポンプを入れ掘り下げ作業続行。

3月20日　雨

雨天のため作業中止

3月21日　雨のちくもり

雨天のため作業中止

3月22日　晴

S－8第1トレンチ設定開始。トレンチ北側で落ち込みと東西方向石組遺構検出。

3月24日　晴

S－8第1トレンチの西側に1.0メートル巾の第2トレンチ設定開始。第1トレンチ内石組遺構に続き西側でも石組検出。T－7第1トレンチ設定開始。地山と思われる層を検出し、北・東側の断面実測（1/20）を行う。湧水のため埋め戻しを行う。

3月25日　晴

S－8第1，第2トレンチの石組遺構の清掃及び写真撮影を行う。R－12第1トレンチ設定開始。

忍ケ丘保育所から調査区域内へレベル移動を行う。

3月26日　晴

R－12，R－13各第1トレンチ設定開始。S－8第1，第2トレンチの割付を行う。

3月27日　晴のちくもり

S－8第1トレンチの南側に0.8メートル巾の第3トレンチ設定のため土盛除去作業を行う。第1トレンチ内の石組遺構に続き南側にも数多くの花崗岩石組遺構を検出。

3月28日　晴

R－8，R－9各第1トレンチを水中ポンプで排水作業を行い、断面削平を行う。R－12，R－13各第1トレンチ掘り下げ完了。東・南・北側の断面実測(1/20)を行う。

3月29日　晴

S－8第2トレンチの西側に1.2メートル巾の第4トレンチ設定開始。R－8 R－9の写真撮影と東・北側の断面実測（1/20）を行う。S－8第1，第2トレン

チの東・南・西・北側の断面実測（1/20）と第3トレンチの東・南・西側の断面実測を行う。

3月31日　雨

雨天のため作業中止。

4月1日　晴のちくもり

R－9第1トレンチを水中ポンプで排水作業を行い埋め戻しにかかる。

4月2日　くもりのち雨

S－8第4トレンチ掘り下げ作業続行。石皿、敲石の出土状態を写真撮影。

4月3日　晴

昨日の掘り下げ作業続行。

4月4日　晴

R－12，R－13各第1トレンチ埋め戻す。S－8第3トレンチ南側で落ち込み遺構確認。

4月5日　晴時々くもり

S－8第3トレンチ落ち込み遺構掘り下げ、最下層から土釜片出土。

4月7日　晴

R－8第1トレンチ内の杭取上げ作業後埋め戻し作業を行う。

4月8日　雨

雨天のため作業中止。

4月9日　晴

水中ポンプで各トレンチ内の排水作業を行う。

4月10日　晴

S－8第1，第2トレンチの石組遺構平面実測（1/10）を行う。第4トレンチの南・西・北側の断面実測（1/20）を行う。

4月11日　晴

S－8第3トレンチの石組遺構平面実測（1/10）を行う。第3，第4トレンチ埋め戻しを行う。

4月12日　晴

昨日のS－8の埋め戻し作業完了。本日で讃良川遺跡発掘調査終了。

3．調　査　概　要

試掘調査で遺物包含層を検出した個所を中心に発掘調査を実施したが、当初の予想された各時代に属する遺構は検出されず後に記するように旧讃良川水路と考えられる石組、杭列遺構を検出したにすぎなかった。

● R－8第1トレンチ（図版第4－1）

調査内の西北端に 2.2m×2m のトレンチを設けた。この断面は東西南北すべてが異なる状態で西側断面から東にかけて落ち込み遺構があり、北側断面でみると斜面が急に落ち込んでいることがよくわかる。

東側断面で観察すると、第1層耕土、第2層床土、第3層褐色砂質土、第3層a淡褐色砂質土、第3層a褐色砂礫層、第4層黄褐色粘質土、第5層灰色粘土、第6層褐色砂層、第7層黄褐色礫混りとなっている。

このトレンチから合計22本の杭列が検出している。(図版第3－2）すべての杭の材質は松であり、30cm～40cm間隔に旧地山に打ち込まれていた。このようなことから鎌倉末～室町時代にかけての讃良川水路の護岸工事に伴なう杭列と考えられる。

伴出遺物として、第3～第5層には縄文式土器片、石器、須恵器片が出土し、第6～第7層には瓦器、陶磁器が出土している。

● R－9第1トレンチ（図版第4－2）

2.2m×1.8mのトレンチである。第3層褐色砂質土、第4層黄褐色粘質土、第5層灰色粘土、第6層黄褐色砂層、第7層灰色砂層である。遺物としては、縄文式土器片、須恵器片、瓦片などが出土しており遺構は認められなかった。

● R－12第1トレンチ（図版第4－7）

1.9m×1.3mのトレンチである。第3層褐色砂質土、第4層褐色砂層となっている。第3層からの遺物として縄文式土器、燈明皿、陶磁器であり遺構は認められなかった。

● R－13第1トレンチ（図版第4－8）

2m×1.4mのトレンチである。第3層褐色砂質土で東西方向に巾38cm、深さ26cmの溝状遺構が認められ、その中から須恵器、土釜片が出土している。

● S－8第1，第2トレンチ（図版第4－4）

3m×3.9mのトレンチである。この断面は東西南北すべてが異なる状態で北から南にかけて斜面が急に落ち込んでいる。

東側断面で観察すると、第1層耕土、第2層床土、第3層褐色砂質土、第3b層褐色砂礫、第4層灰褐色砂層、第5層灰色砂礫、第6層黄褐色粘土、第7層黄褐色砂質土となっている。このトレンチから東西方向に4個の花崗岩（風化した花崗岩の岩盤を削り出して整形）と東端石から南へ1.0m巾に花崗岩小石が敷つめられていた。

（図版第３－１）
花崗岩小石の間から布袋（図版第７－12）、や巴文軒丸瓦（図版第７－11）他にも数多くの石器、土器、瓦類が出土している。

● Ｓ－８第３トレンチ（図版第４－５）

第１トレンチの花崗岩小石敷つめ状態から見て南側にも広がる状態を調べるために５ｍ×１ｍのトレンチを設けた。その結果２ｍの所まで敷つめられていることがわかった。

小石の間から、石器、縄文式土器、埦形土器が出土している。

このトレンチ南側で落ち込み遺構が確認され東側断面で観察すると、第８層灰色砂層、第９層灰色砂質土、第10層灰色礫層となっている。この落ち込み遺構とＲ－８第１トレンチの杭列遺構との位置的関係、伴出遺物から旧讃良川水路と思われる。

● Ｓ－８第４トレンチ（図版第４－６）

第１，第２トレンチの花崗岩石組遺構の西側続きの状態を調べるため5.3m×1.1ｍのトレンチを設けた。石組遺構が４個で終り、そこから杭３本（60㎝間隔）検出したにすぎなかった。（図版第3－1）北側断面で観察すると、第１層耕土、第２層床土、第３層褐色砂質土、第３層ａ淡褐色砂質土、第３層ｂ褐色砂礫、第４層灰褐色砂層、第５層黒灰色粘土層、第６層黄褐色粘土層、第７層灰色砂層となっており、第３層に黄灰色砂層がブロック状に入り込んでいる。

出土遺物では、縄文式土器片、石皿、敲石、ハンマーストンが第３層から出土している。

● Ｔ－７第１トレンチ（図版第４－３）

２ｍ×２ｍのトレンチである。第３層黄褐色砂質土、第４層褐色砂層、第５層黄褐色粘土でいずれも流土である。第４層からの出土遺物としては、縄文式土器、須恵器、土師器であり遺構は認められなかった。

4．出　土　遺　物　概　要

試掘調査で検出した遺物は表1の如くである。

遺物は、大別すると縄文時代、奈良時代、中世に属するものとがある。縄文時代には、縄文式土器、石皿などの石器類、奈良時代には、讃良寺の古瓦、土師器、中世には、土釜、瓦器、燈明皿、陶磁器、瓦、布袋などがある。以下、地点ごとに、その出土遺物の概要を表示しよう。

出土地区 ＼ 摘要	石　器	縄文式土器	須恵器	土師器	瓦	土　釜	瓦　器	陶磁器
R－8	2	7	1	4	3	3	1	0
R－9	0	2	1	2	1	1	2	0
R－12	2	2	1	6	0	3	0	0
R－13	0	1	1	1	1	1	0	1
S－8	51	70	5	8	39	50	5	2
T－7	1	5	1	3	1	0	0	0
小　計	56	87	10	24	45	58	8	3

表1　讃良川遺跡出土遺物

●縄文式土器（図版第7－1，2，3，4，7）

総数87点を数える。多くは第3層褐色砂質土より出土したものである。

種類も多く甕・壺・深鉢・浅鉢等、いずれも縄文晩期のものが多く、黒褐色を呈し、一部煤が付着している。胎土には、石英粒、砂粒を含み、縄文を施文したのち深線を描き、区画内を磨消している。又底部のすべては上げ底となっている。

●摺鉢形土器（図版第7－5）

残存径約7.3cm、残存高約7.0cmの摺鉢の口縁部であり、全体をほぼ復原すると径約22cmである。焼きが甘く、軟質で褐色を呈している。外面には横方向のハケ目による整形と内面には縦方向のきざみがあり、その用途を示している。

●摺鉢形土器（図版第7－6）

残存径約8.2cm、残存高約9.0cmで全体をほぼ復原すると径約28.6cm、器高約10.5cmである。前者と同じく焼きが甘く、軟質で褐色を呈している。内外面には横方向のハケ目による整形と内面には縦方向のきざみがある。

●埦形土器（図版第7－8）

残存径約4.3cm、残存高約3.9cmの古伊万里に属する磁器茶埦であろう。残欠であるが、全体をほぼ復原することができる。径約7.7cm、器高約3.9cm（いずれも復原を

計る）白色の素地に青藍色で絵を描いている。焼成良好、胎土は密で白地を呈する。

● 埦形土器（図版第７－９）

残存高約1.8cm、高台径約4.2cmであり、全体を復原することは困難である。外底面に青藍色で２重の線を描いている。焼成良好、胎土は密で白地を呈する。

● 須恵器（図版第７－10）

８世紀以降に属する底部で残存高約2.8cm、高台径約7.7cmであり、全体を復原することは困難である。底には糸切り痕が残り、内面にはロクロ使用に伴う整形痕が認められる。

● 軒丸瓦（図版第７－11）

巴の文様を持つものであり、完全な形ではないため全体の形状が不明である。外縁には直径1.3cm程の珠文を施している。

● 布袋（図版第７－12）

残存高約3.2cm、残存巾約5.2cmで岩の上に布袋が正座しているように見られる。土師質で焼きが固く両面型で作られ、底部に直径3.4cm、深さ2.7cmの孔がある。この布袋らしきものは今後の資料によって明らかにされると考えられる。

● 石器（図版第５，第６）

讃良川遺跡における石器、石片あわせて56点である。これらの石材はサヌカイトと砂岩質のものが多く、打製及び磨製石器である。

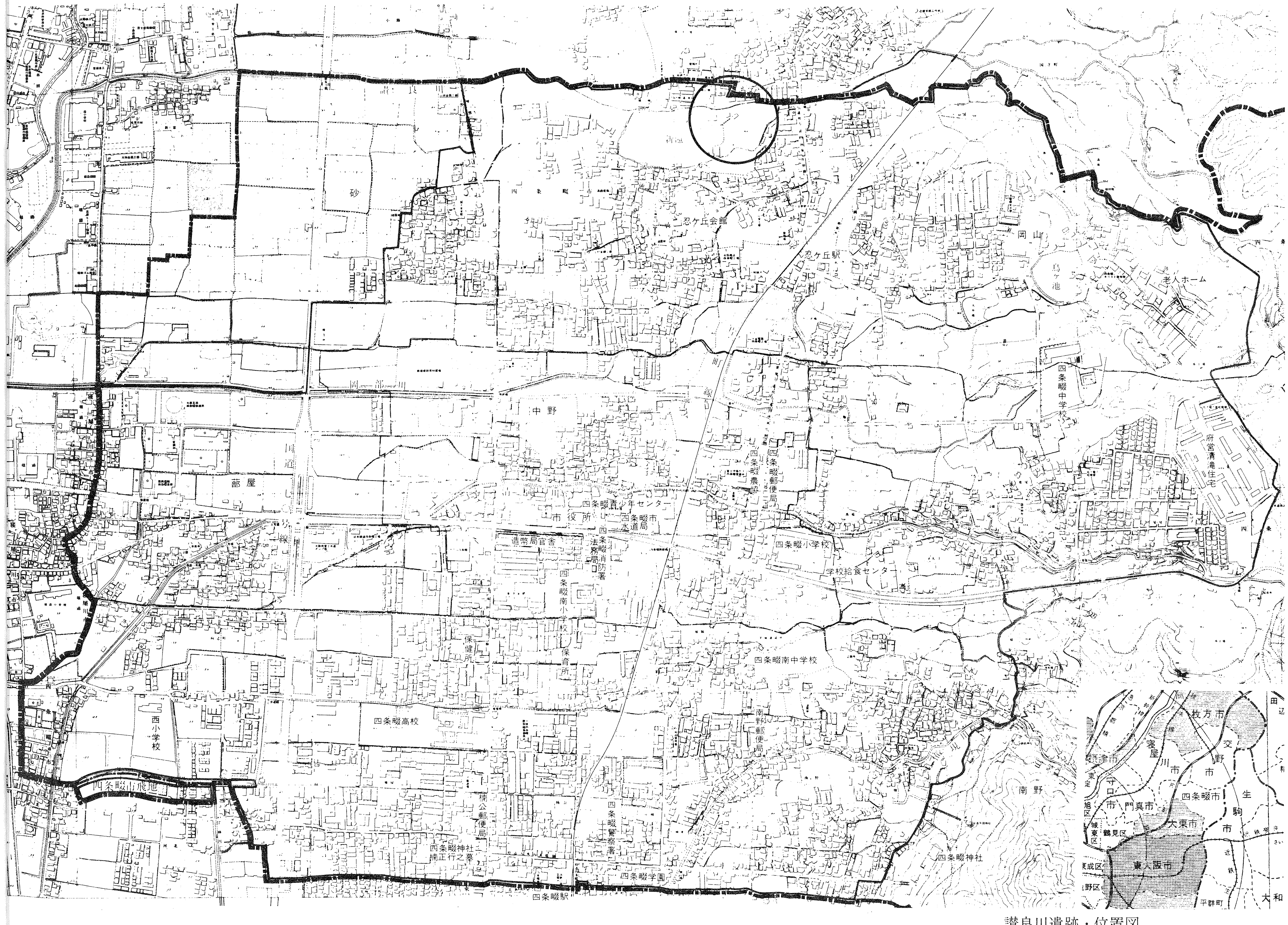
摘要 / 器種	図版No.	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	重さ (g)	石質	地区
不定形石器	図版第5-1	6.6	4.6	0.9	35.0	サヌカイト	S－8－3
	5-2	7.1	4.6	1.8	55.0	サヌカイト	R－8－1
	5-3	5.4	3.6	1.2	28.0	サヌカイト	S－8－1
	5-4	6.6	5.8	1.5	50.0	サヌカイト	S－8－1
刃部をもつ石器	5-5	4.7	1.7	1.2	9.0	サヌカイト	S－8－4
	5-6	4.1	1.5	1.05	5.0	サヌカイト	S－8－4
剥片	5-7	4.2	2.2	0.8	10.0	サヌカイト	R－8－1
	5-8	4.5	3.1	1.05	16.0	サヌカイト	S－8－3
ハンマーストン	図版第6-1	10.0	2.5	1.9	60.0	緑泥片岩	S－8－4
磨石	6-2	12.4	4.3	3.0	300.0	砂岩	S－8－3
	6-3	5.3	4.1	2.5	90.0	砂岩	R－12－1
敲石	6-4	11.5	12.0	6.5	1,340.0	硬質の砂岩	S－8－3
	6-6	11.2	7.5	3.9	580.0	硬質の砂岩	S－8－4
石斧	6-5	11.3	6.9	2.5	368.0	変成岩	S－8－4
石皿	6-7	19.0	16.2	7.0	2,980.0	砂岩	S－8－4

5．ま　と　め

公的住宅建設計画に伴う約17,000m²にわたる今回の確認調査ではごく一部の範囲で遺構の確認をみたにすぎず、今後の新池北岸台地の調査に期待されるものが、さらに多くなったといえよう。

先にのべたように讃良川遺跡は旧石器時代の讃良川川床遺跡、縄文時代の後晩期の岡山遺跡、奈良白鳳時代の讃良寺跡など、この一帯が複合遺跡であるところから注目されており、過去幾度が実施された調査でもそのつど遺跡の時代等の確認がなされ、多数の石器、土器、瓦等の発見がされているが遺跡の全容は未だつかめていないのが現状である。

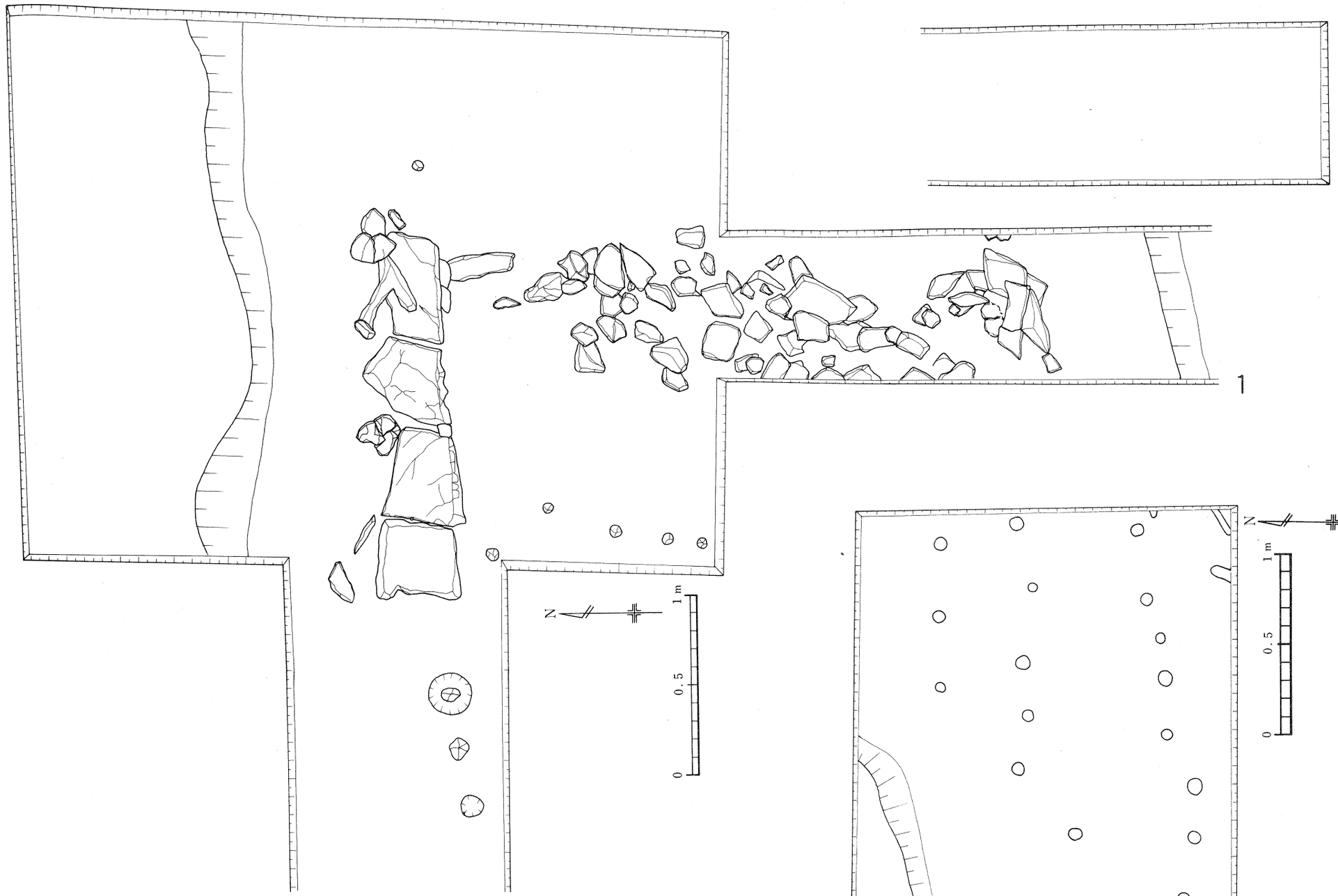
今後予想されるであろう住宅建設計画にあっては更に新池北岸台地の本格的調査が必要であり、それらの成果をみた上で、遺跡公園、資料館等をとり入れた開発計画を進める必要があろう。


砂
忍ケ丘会館
忍ケ丘駅
岡山
老人ホーム
岡部川
中野
四条畷中学校
府営清滝住宅
部屋
四条畷郵便局
四条畷農協
四条畷青少年センター
市役所
四条畷市水道局
造幣局官舎
法務局
四条畷消防署
四条畷小学校
学校給食センター
四条畷南小学校
保健所
保育所
四条畷南中学校
四条畷高校
西小学校
南野郵便局
南野
楠公郵便局
四条畷神社
楠正行之墓
四条畷警察署
四条畷学園
四条畷駅
枚方市
寝屋川市
交野市
守口市
門真市
四条畷市
生駒市
大東市
東大阪市
鶴見区
平群町
大和
田辺

讃良川遺跡・位置図

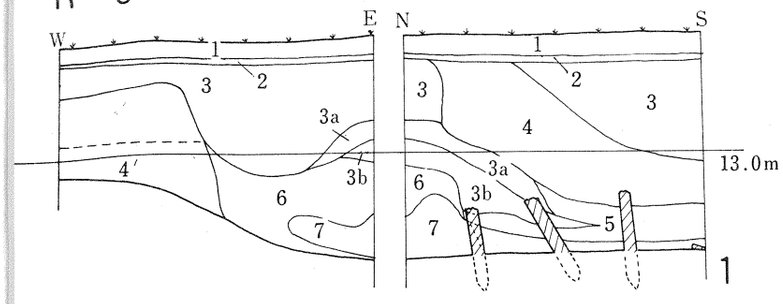
図版第二

讃良川遺跡発掘調査旧地



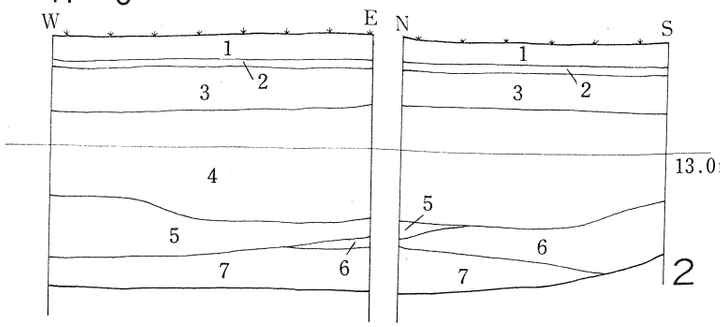
讃良川遺跡・検出遺構実測

R－8



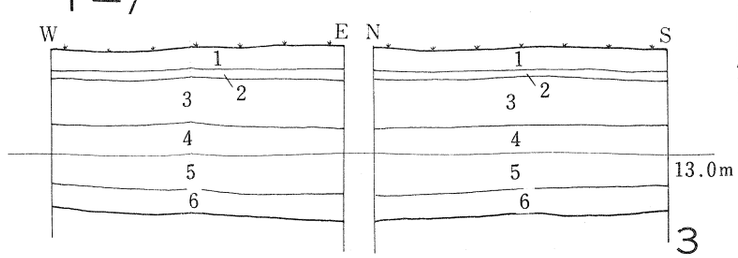
1

R－9



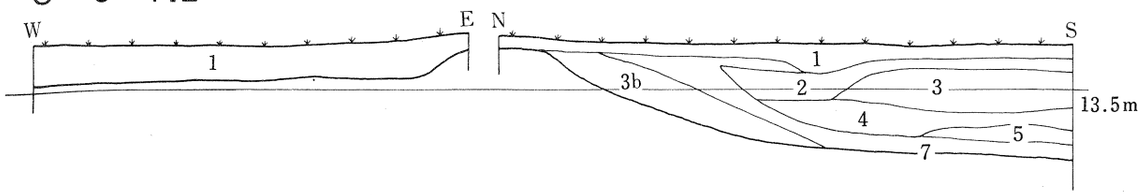
2

T－7

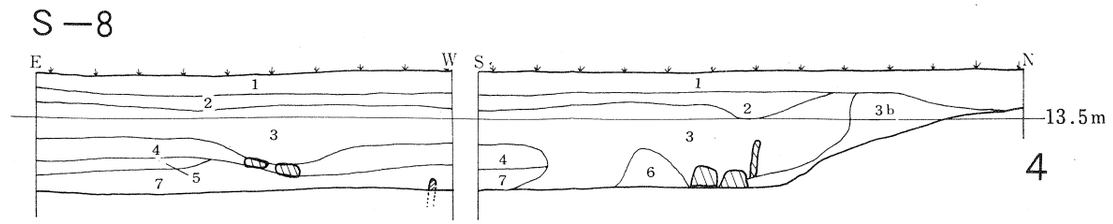


3

S－8－1.2

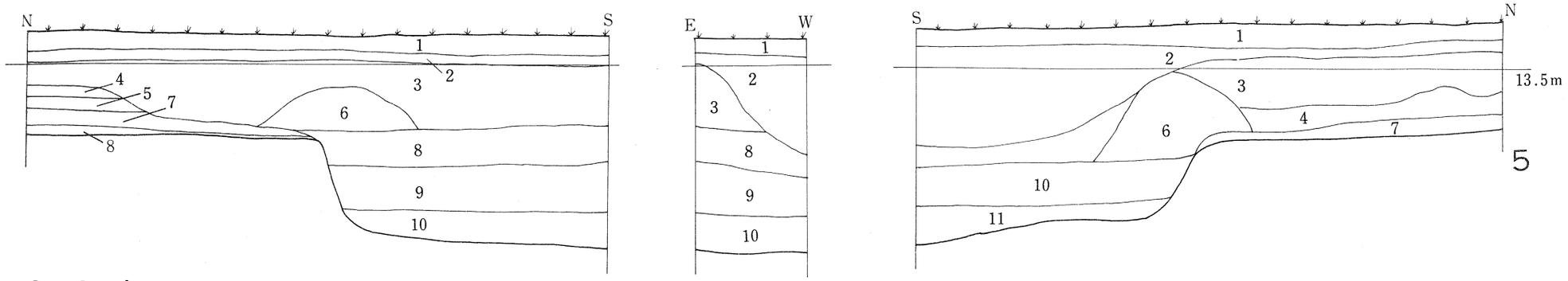


S－8



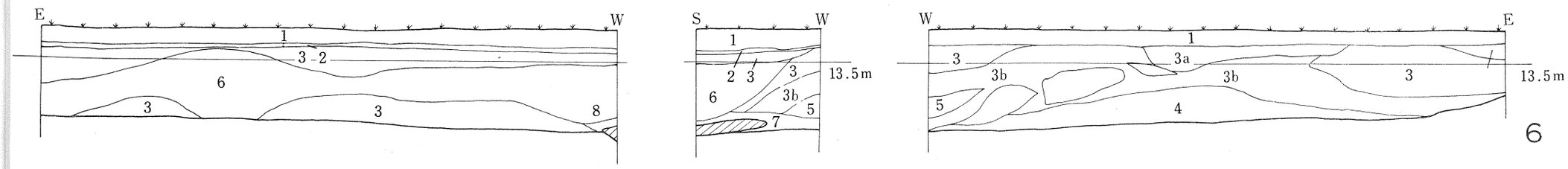
4

S－8－3



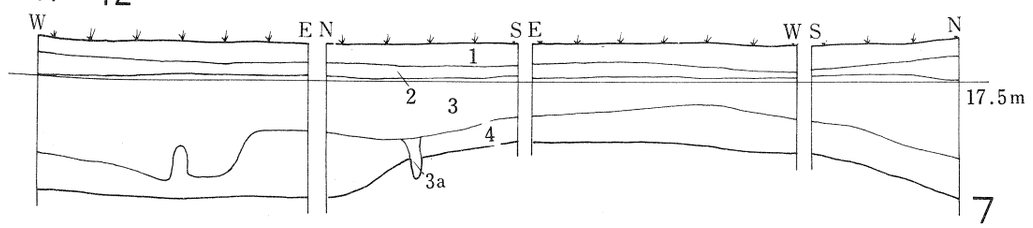
5

S－8－4



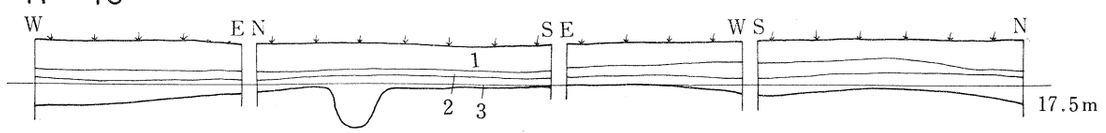
6

R－12

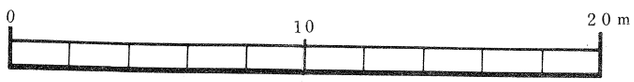


7

R－13

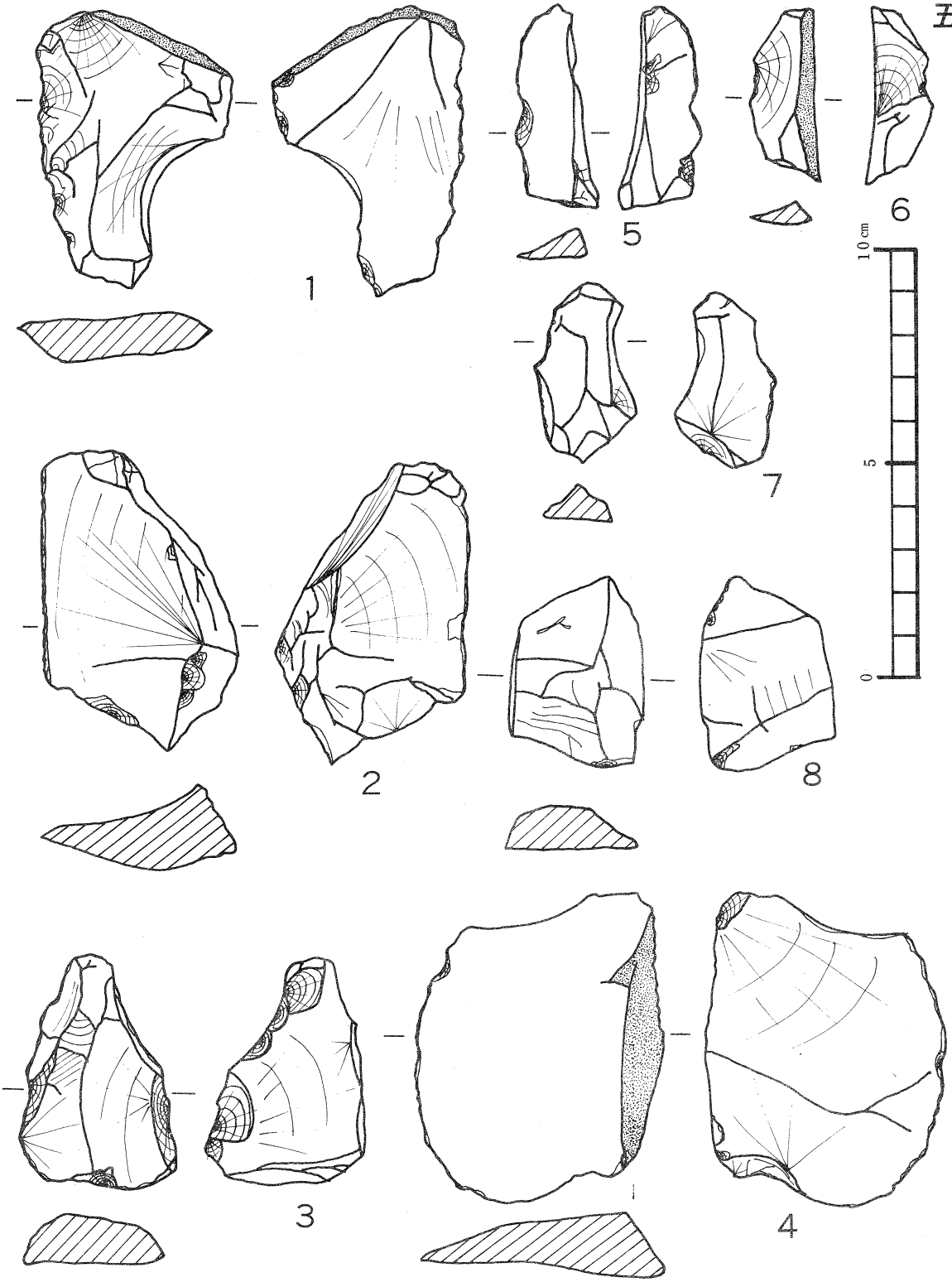


8

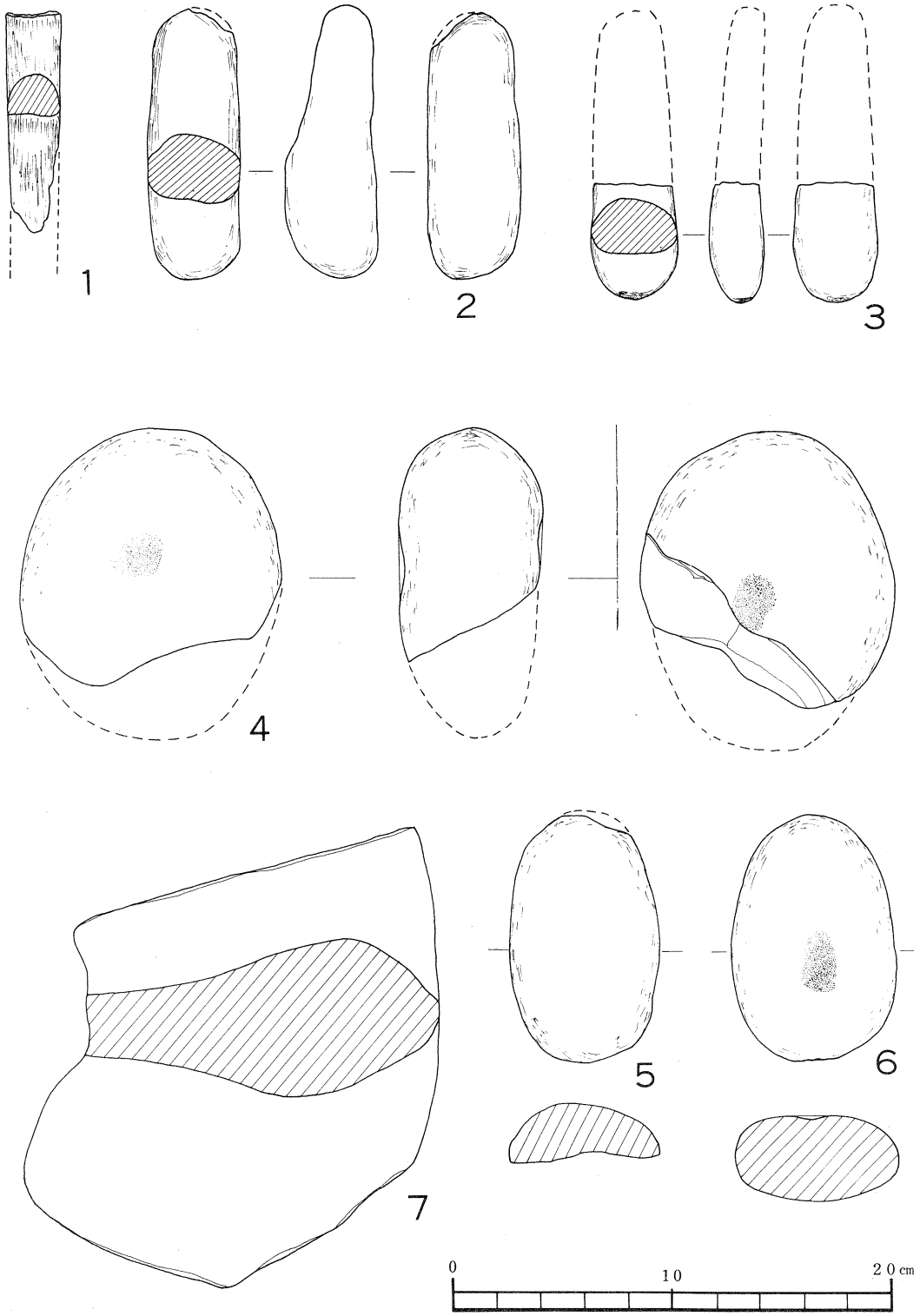


讃良川遺跡・遺構断面実測

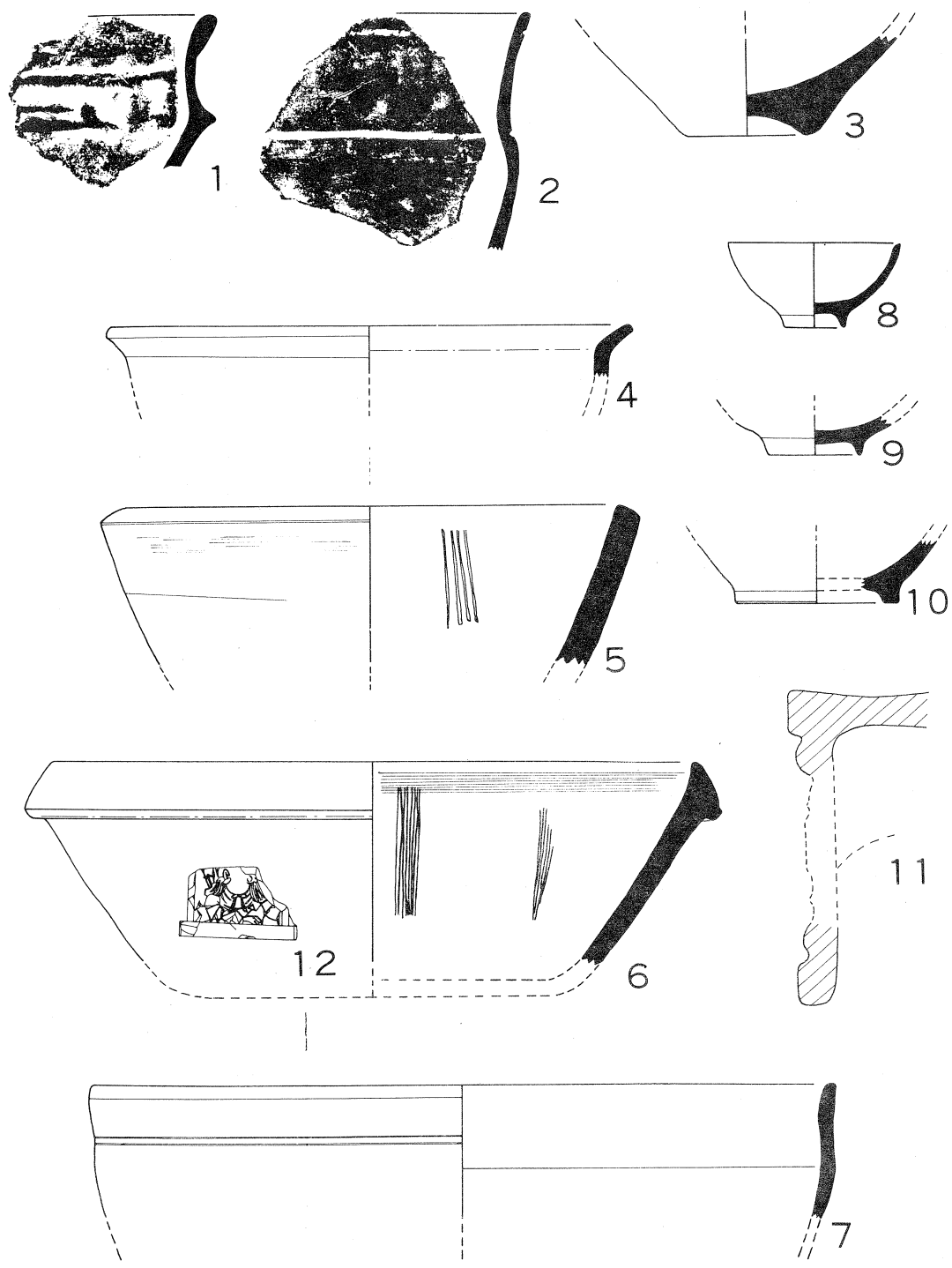
図版第五



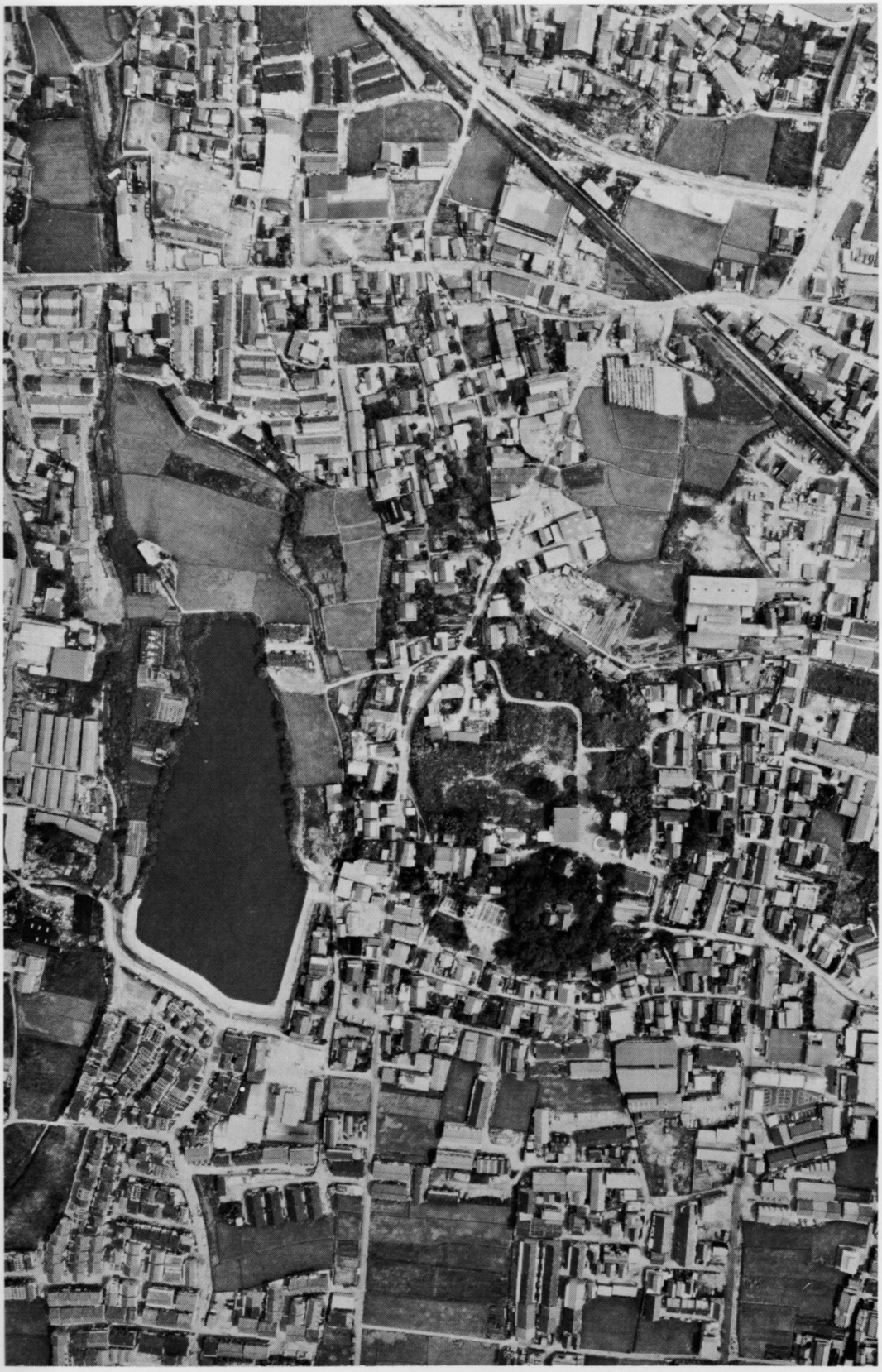
讃良川遺跡発見・打製石器



讃良川遺跡発見・磨製石器

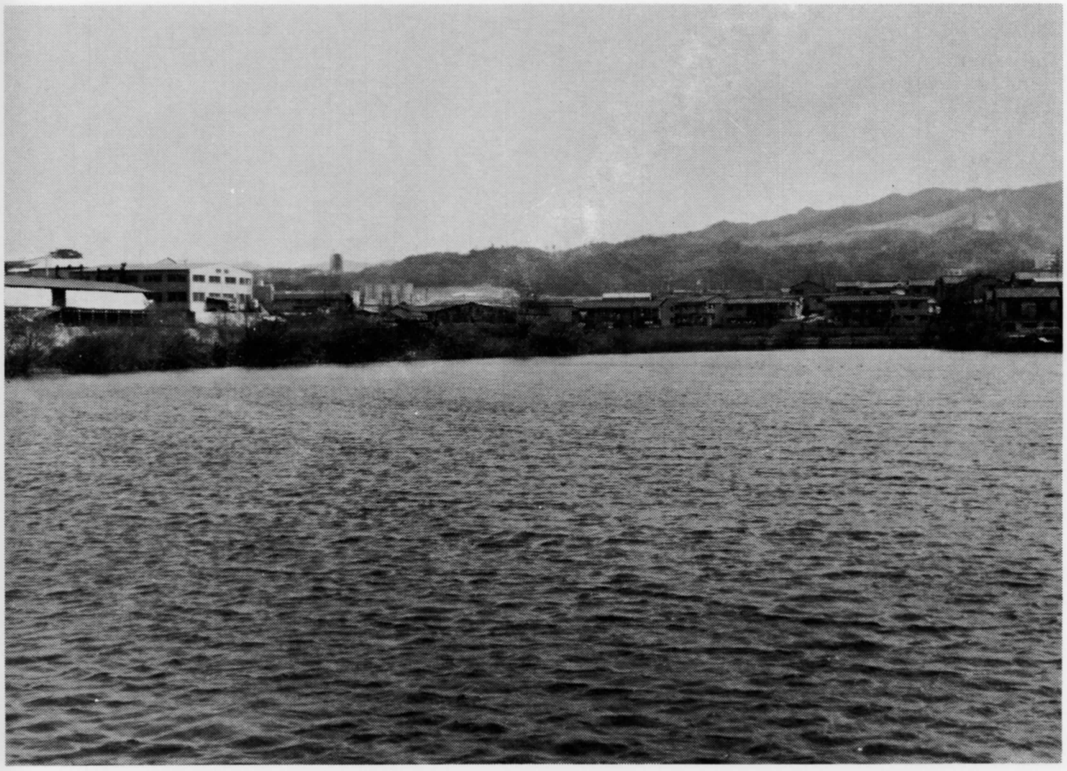


讃良川遺跡発見遺物

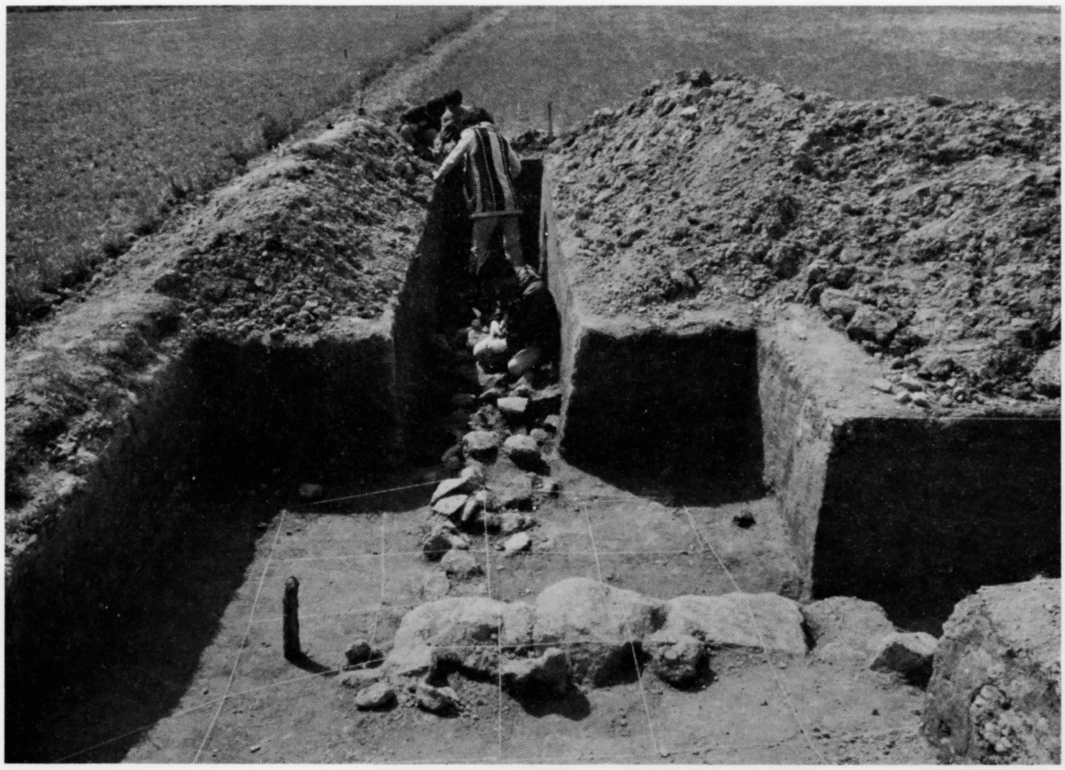


遺跡附近の全景（航空写真）
昭和49年２月撮影

遺跡近景・東から



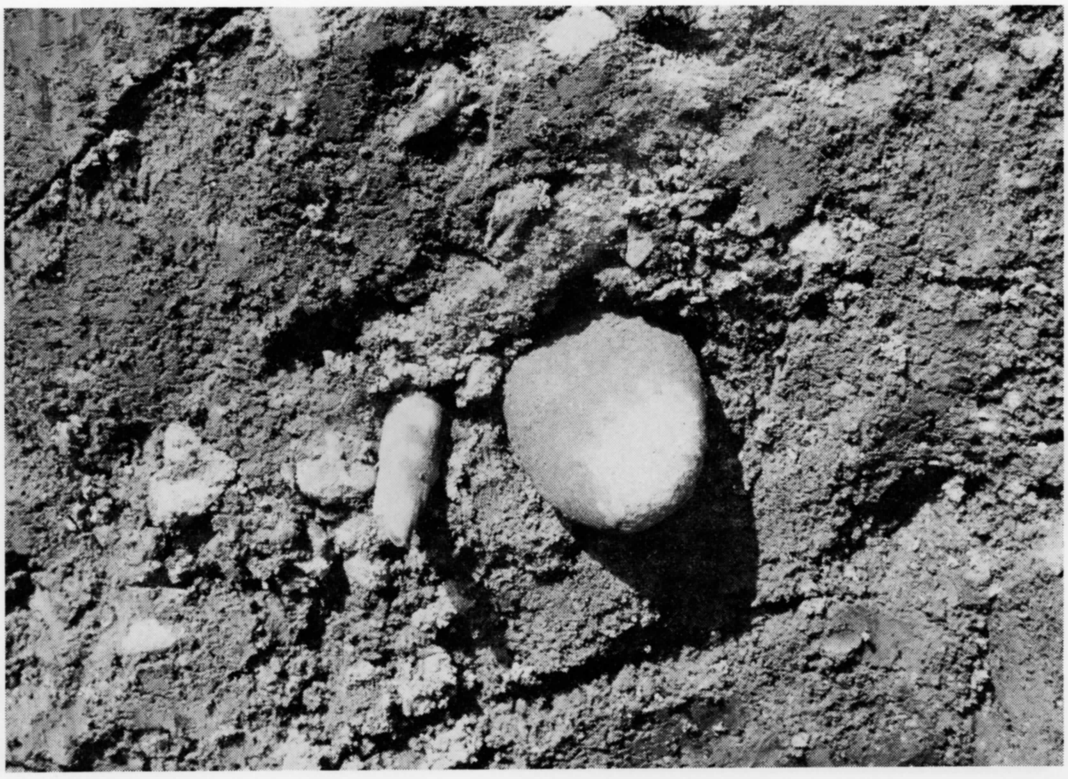
遺跡近景・西から



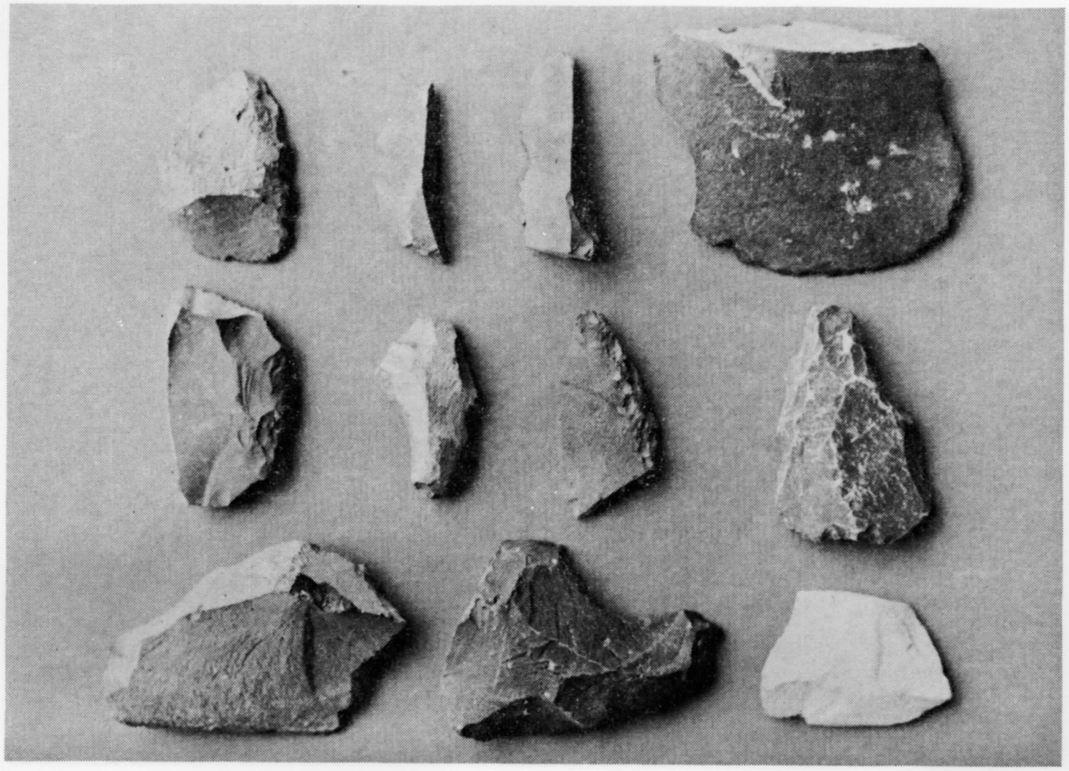
石組遺構全景・北から

杭列遺構全景

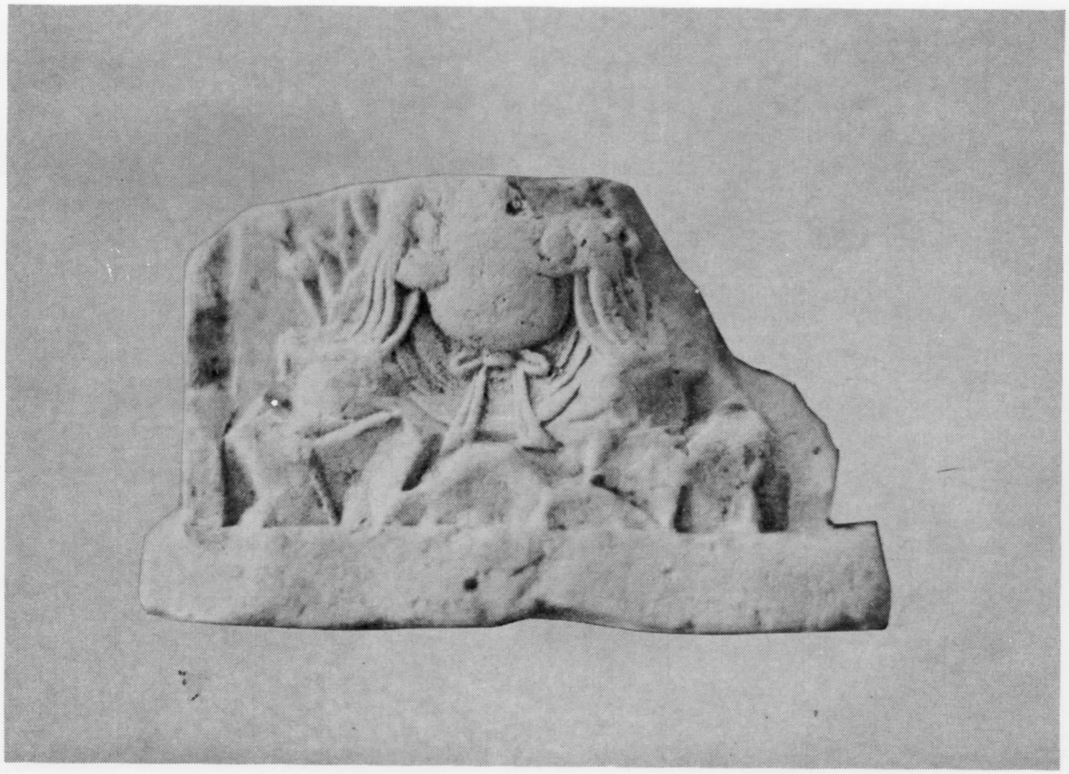
S－8第4トレンチ石皿出土状況



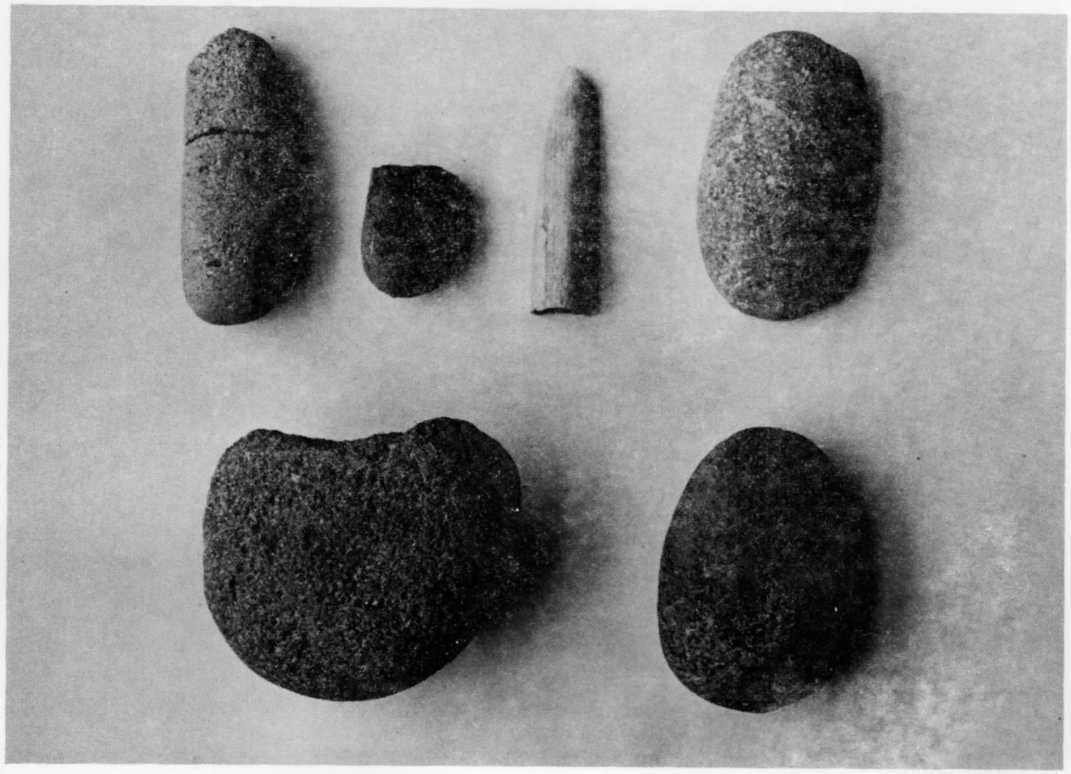
S－8第4トレンチ断面敲石・ハンマーストン出土状況



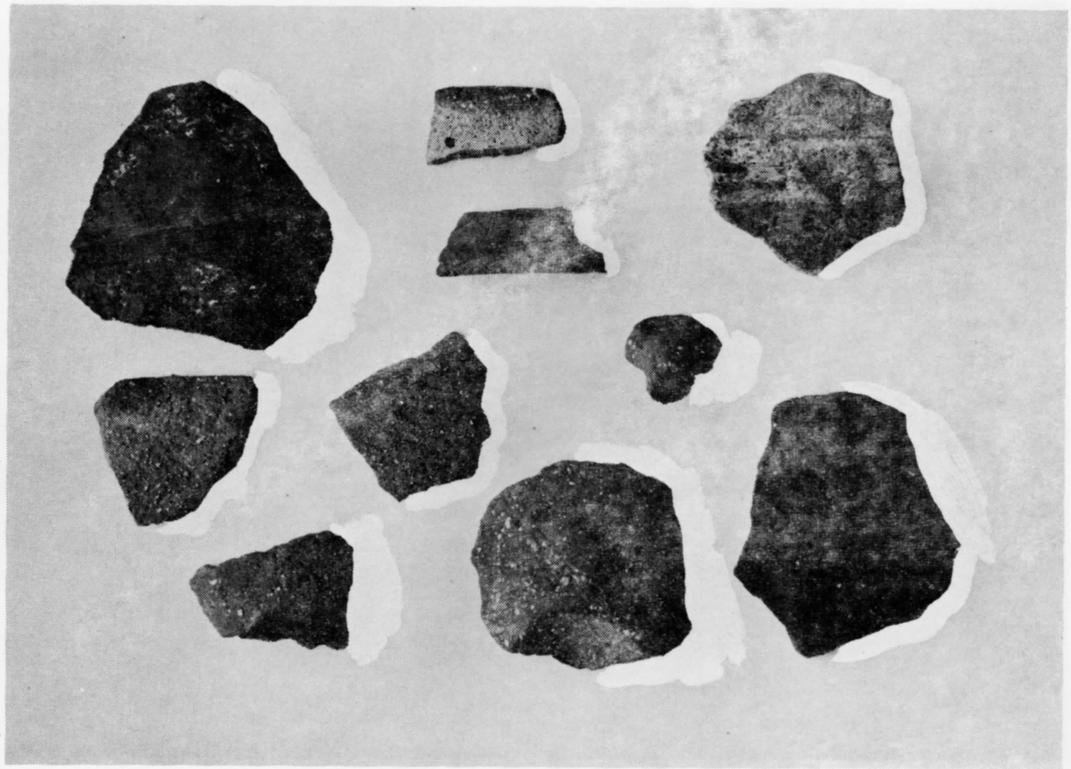
不定形石器剝片・表



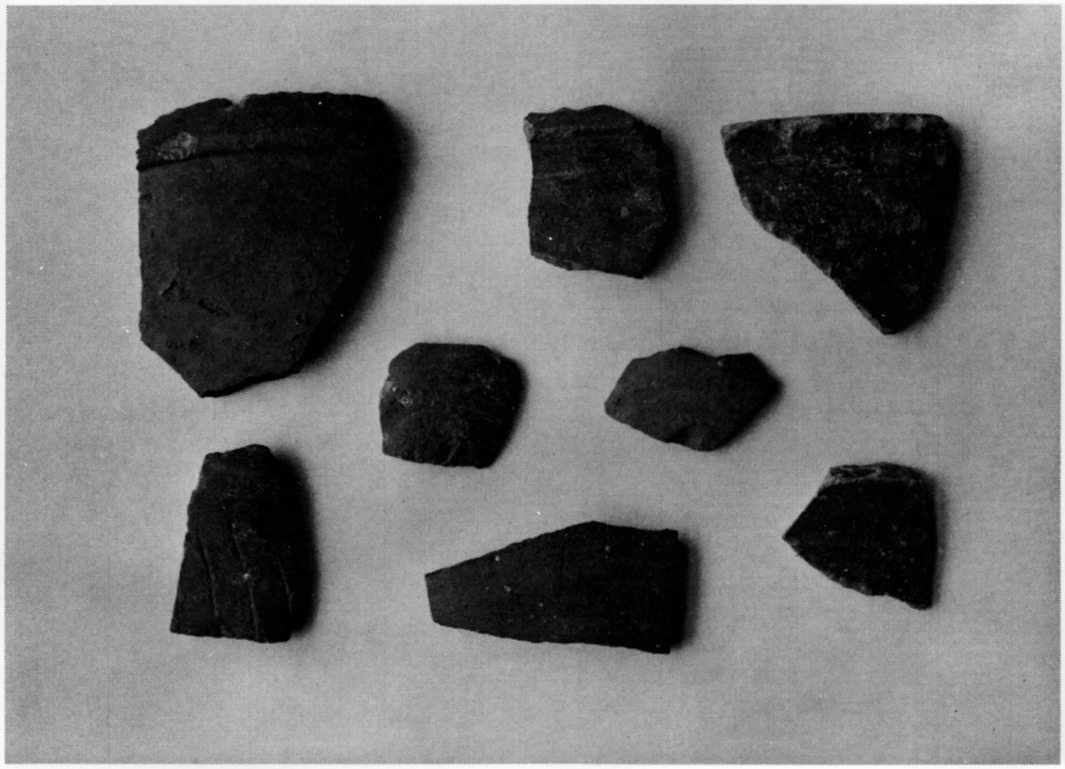
布　袋



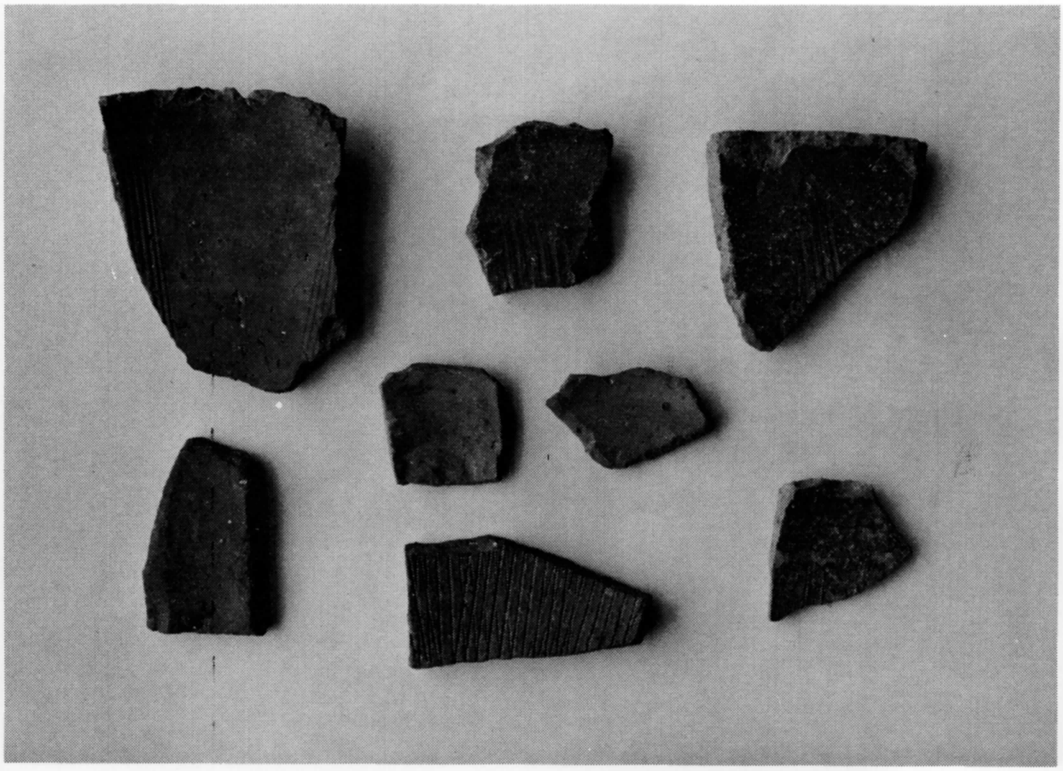
磨製石器



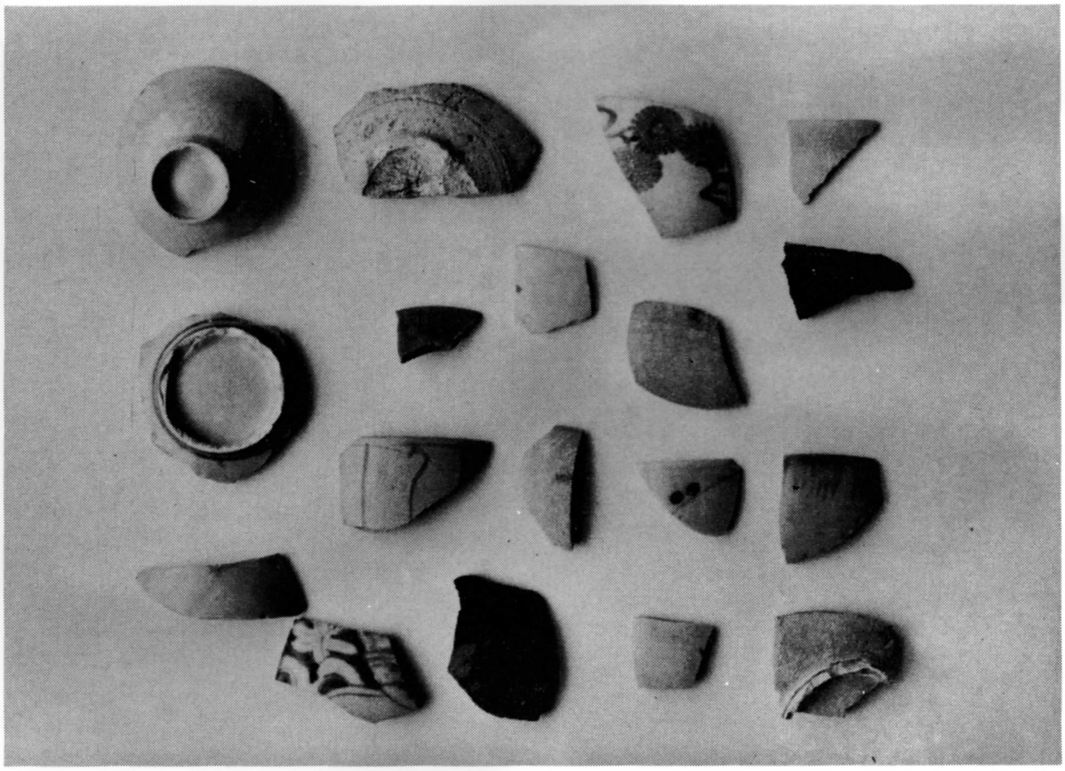
縄文式土器



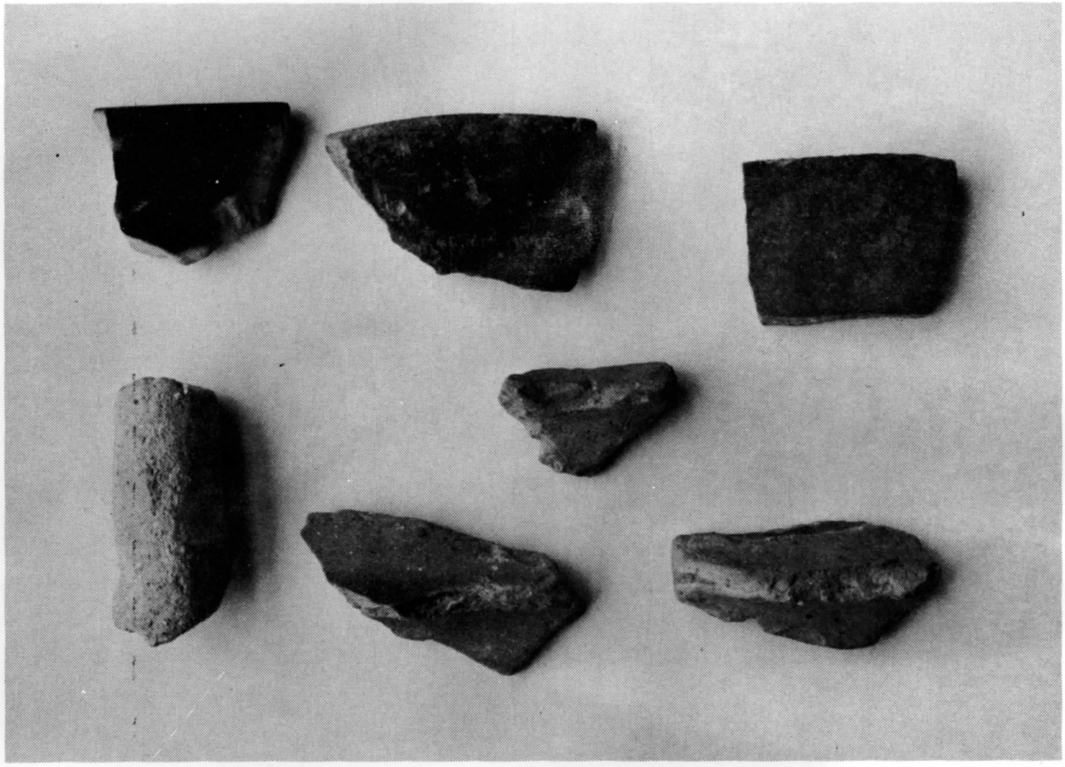
陶磁器・表



陶磁器・裏



陶磁器・表



香炉と土釜